

Title	ラーニング・コモンズにおける授業実践
Author(s)	久保山, 健
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/25948
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

第 98 回全国図書館大会 (2012.10.26)

分科会名 第 2 分科会

演題 ラーニング・コモンズにおける授業実践

発表者 久保山 健

所属名 大阪大学附属図書館

区分 事例発表

1. はじめに

大阪大学附属図書館総合図書館(以下、当館)2010年4月から、ラーニング・コモンズを授業等に利用できるよう運用を行っている。本稿では、その実績やラーニング・コモンズの選択理由、図書館以外の施設を紹介するとともに、現時点の課題を整理する。

2. 当館のラーニング・コモンズの概要

当館のラーニング・コモンズは2009年6月にオープンした。B棟と呼ばれる部分の耐震改修がきっかけであった。当館は本学の豊中地区にある。

自主的、自律的な学習活動を支援するための空間であり、コンセプトは「Teaching から Learning へ」「Reading から Learning へ」であった。従来型の図書・雑誌と、電子ジャーナルやデータベースなどの電子資料の双方が利用でき、可動性の高い什器を配置した創造的な学びの行える場所である。

3. 授業等での利用

3.1 利用ルールの整備

ラーニング・コモンズをより活用するため、授業等で利用できるよう「ラーニング・コモンズ授業等使用要項」が設けられた。

使用範囲は、いわゆる授業だけではなく、「本学の教職員等により行われる、学術研究及び教育を目的とした研修等」や、「その他学術研究及び教育を目的とした行事等で、総合図書館の館務を掌理する副館長(以下「副館長」という。)が適当と認めるもの」

と規定されている。幅広い用途で利用されることを想定したと読み取れる。

3.2 利用実績

2010年度以降の利用実績を振り返る。授業については、「教員 x」と表記し、利用回数を記載した。授業以外については、内容と利用回数を記載した。半期を通しての授業については「15」回とした。

○2010年度

- ・教員 H 15 (半期の授業)
- ・教員 H 15 (半期の授業)
- ・教員 N 1 (授業の内1回)
- ・教員 K 1 (授業の最終報告会)

○2011年度

- ・教員 H 15 (半期の授業)
- ・教員 N 1 (授業の内1回)
- ・インタビューの撮影 1

○2012年度 前期

- ・教員 H 15 (半期の授業)
- ・教員 S 4 (授業の内2回×2クラス)
- ・教員 O 3 (授業の内3回)
- ・ビブリオバトル 1

単純に回数の増減を評価しないが、2012年度前期に初めて利用される教員が重なったことは着目したい(教員 S、O)。後述するが、書籍の探し方の説明や、書籍を使った授業進行の広がりを感じられるからである。

上記以外にも、図書館主催の各種講習会やユーザーインタビューもラーニング・コモンズを用いて実施している。

3.3 図書館の場を選ぶ理由

授業の場所として図書館を選ぶ理由は、利用申請の内容や、口頭でのやり取りから、次のようなものと推測できる。

- (1) 書籍の探し方の説明
- (2) 書籍を使った授業進行

(3) パソコンの利用

今後、アンケート調査等を実施して、選択理由やニーズの把握をしたいと考えている。

3.4 図書館側の実務的な対応

図書館側の実務的な対応としては以下のよう
なものがあげられる。

- (1) 利用問合せや申請の対応
- (2) 場所や機器の確保、予約
- (3) 図書館案内、調べ方の説明のサポート

3.5 図書館以外の施設 (*1)

本学の豊中地区には、当館以外にも学生の自主的な学びを活性化する空間が作られていることも忘れてはならない。教育支援のための施設の1つとしてラーニング・コモンズも存在する
と考えるからである。

2009年11月には、大学教育実践センター(現在は全学教育推進機構)に「スチューデント・コモンズ」が設置された。スチューデント・コモンズは、36~108席の4つの教室と、カフェテリアが設置されている。

これらの教室は、授業に使用されている他、研究会やワークショップなど、学生同士や学生と教職員との交流の場としても使用されている。

ランチタイム以外のカフェテリアでは、友人同士で勉強したり、自習している学生の姿もよく見ることができる。



写真 1 ラーニング・コモンズでの授業の様子

4. 課題

ラーニング・コモンズの授業実践について、現時点の課題を整理しておく。

(1) 手続きの簡素化

使用者側、提供側ともに複雑にならないように、所定の形式の書面はなるべく減らしていきたい。

(2) 休館日

当館は試験期を除いて、月末に休館しているが、授業実践とのバランスが必要である。

(3) 書籍を探しに行くときの荷物管理

ラーニング・コモンズはオープンな場所であり、館内に書籍を探しに行く際に荷物を管理する人が必要となる。

(4) 広報活動や学務担当部署との調整

現在は積極的な広報は行っていないが、拡大するのであれば、教務担当部署とも調整しながら、さらに広報も必要となる。

5. おわりに

以上、当館のラーニング・コモンズにおける授業実践について述べてきたが、本学の教育課程とつながりが強いとも言えないのも事実である。今後、授業実践だけでなく、教育課程と連動した当館の役割も考えていきたい。

また、11月にはラーニング・コモンズと隣接した区画に「国際コモンズ」がオープンする。このエリアも併せて、本学の教育目標を支援できるように、授業以外にも各種セミナーなど、交流を促す場所としても活用されるようにしていきたい。

(*1) スチューデント・コモンズに関しては、本学全学教育推進機構の Web サイトを参照した。
<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/organization/stcommons>

(2012.7.25 提出)